

数学科（数学Ⅰ）学習指導案							
年月日	平成 28 年 6 月 17 日（金）第 1 時限						
年次	1 年次	講座	104	教室	104HR	指導者	万代 道也
単元	第 1 章 数と式 第 2 節 1 次不等式			教科書	最新 数学Ⅰ（数研出版）		
指導目標	1	式を多面的に見させて、目的に応じて式を適切に変形させる。		指導計画	1	不等式の性質・・・・・・・・・・ 3 時間	
	2	不等式の解の意味や、不等式の性質について理解させる。			2	1 次不等式の解き方・・・・・・・・ 4 時間	
	3	1 次不等式の解を求め、1 次不等式を事象の考察に活用させる。			3	連立不等式・・・・・・・・・・ 2 時間 (本時はその 1)	
					4	不等式の応用・・・・・・・・・・ 2 時間	
					5	練習問題・・・・・・・・・・ 1 時間	
本時の経過	主題	連立不等式					
	目標	1 2 つの 1 次不等式の解に共通する範囲が、連立不等式の解になることを理解させる。 2 連立不等式の解を、数直線を用いて求めさせる。					
	課題	1 次不等式の解き方を復習し、プリントの 1 次不等式の問題を解いておく。					
		学 習 活 動	時間	指導上の留意事項		資料、評価規準等	
指導過程	導入	前時の復習をし、1 次不等式の解き方を理解しているか確認する。	10	・前時の授業を振り返り、不等式の性質を用いることで一次不等式が解けることを確認させる。		【評価規準】 ○不等式の性質を理解し、1 次不等式を解くことができる。 <知識・理解> 【評価方法】 ○板書や発表内容	
		1 連立不等式の解の求め方を説明する。	5	・共通範囲がある場合の解の求め方を確認させる。		【評価規準】 ○1 次不等式の解き方を考察する過程で、不等式の性質を考察することができる。 <数学的な技能>	
	展開	2 例題 20 を確認し、練習問題を解く。	15	・机間指導を行い、数直線を適切に利用させる。		○連立不等式の解を数直線上に表現することができる。 <表現・処理>	
		3 共通範囲がない場合の解の求め方を確認し、練習問題を解く。	10	・等号がある場合とない場合の違いに気付かせる。		【評価方法】 ○演習観察	
整理	1 本時のまとめを行う。	10	・本時の学習内容について確認させる。				
	2 次時の内容を確認する。		・次時の課題を確認させる。				
備考	生徒数 男子 23 名・女子 10 名 計 33 名						